平成31年度施策評価シート

評価対象年度	平成30年度

1 基本情報

施策名	２ － ２ みどりが価値を生み出すまちづくり					戦略名	みどり活用プロジェクト		
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	環境課					
	部長名	川上　利一	関係課	教育支援課					

2 取組目標（Plan）

取組目標	●豊かなみどりが生み出すきれいな空気や静けさといった白井市の良質な環境を、市民とともに守り、育むことで、愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。

3 平成30年度取組状況（Do①）

取組1 地域での環境保全や創出の取り組みとしてのグラウンドワーク（※）の推進

取組方針	みどりの地域資源を守り、育む活動など、地域や市民団体等が連携した取り組みを進めます。 ※市民、市民団体、事業者及び市が連携して地域の環境保全の取り組みを行う活動で、生活の現場（グラウンド）に関する創造活動（ワーク）のこと。
取組内容	・神々廻市民の森のPRを目的としたクラウドファンディングを実施した。 ・市民団体との協働による神々廻市民の森の入口付近の花壇づくりを継続中。 ・千葉大学院生（園芸学研究科「環境健康プロジェクト演習Ⅰ」の講義（演習）受講者）と共催による、小学生対象のイベントの開催した。 ・白井高校美術部生徒の協力を得て看板等の改修を行う。（継続中）

構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	30	森のグランドワーク推進事業	改善して継続			

取組2 白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進

取組方針	学校や市民団体等と連携し、みどりが形成されてきた歴史やその貴重さなどに関する学習機会を充実します。
取組内容	・市民団体等と協働で環境フォーラムを開催した。（体験活動・パネル展示・クラフト体験・食育講座） ・幼稚園と協働でけやき台多目的広場にビオトープを造成した。 ・団体と協働で市内2つの小学校で教育計画に基づいた体験等を取り入れた授業を実施した。 ・市内の水生生物の展示を行っている。 ・市民活動団体が実施している環境学習について、支援や市との共催で実施している。

構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	31	環境学習推進事業	改善して実施			

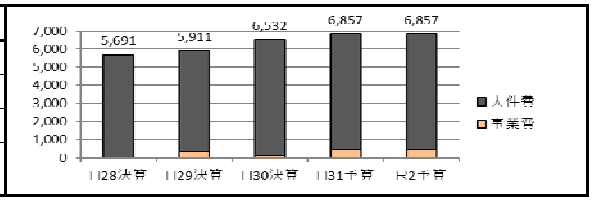
4 施策展開の状況（Do②）

改善した取組	・市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、昨年から行っている共催による環境学習講座に、新たに幼稚園と協働でけやき台多目的広場にビオトープを造成し、環境学習講座を企画した。 ・若い世代に環境フォーラムパネル展示に参加してもらう為、クラフト体験や食育のイベントを一緒に実施した。 ・グラウンドワークでクラウドファンディングを実施し、市内外の方々に神々廻市民の森をPRした。
他分野・他施策との連携	各小中学校の教育計画に基づいて、学習や体験等を取り入れた授業の実施について、団体と協働で小学校２校で実施できた。

5 施策推進コスト(Do③)

（千円、%）

	H28決算	H29決算	H30決算	H31予算	R2予算
事業費	14	347	150	475	475
人件費	5,677	5,564	6,382	6,382	6,382
合計	5,691	5,911	6,532	6,857	6,857
プロジェクト内割合	31.5	26.7	27.3	43.7	39.8



6 1次評価(Check①&Action①)

	施策指標名	単位	基準値/基準年度		目標値	実績値				
					R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度
定量的評価	白井のみどりの環境を自慢に思う市民の割合	%	-	-	72.1	72.1	77.8	83.7		
	地域の環境保全活動に参加している市民の割合	%	-	-	44.0	33.8	24.1	16.4		

定性的評価

市の良質な環境を市民と守り育むことで、愛着と誇りの持てるまちづくりを進めるため、H３０年度は、身近な自然環境への興味、関心を高められるよう、市民団体等３団体と共催で環境学習講座を年間で計１１回実施するとともに、大学との連携により神々廻市民の森でイベント実施するなど、より多くの市民に、市内の自然環境への興味、関心を高めるきっかけづくりができた。

進捗状況

- □ 順調
- ■ おおむね順調
- □ やや遅れている
- □ 遅れている

	喫緊の課題	中長期的な課題
課題	自然環境の良さ、自然環境の保全について市民の満足度は高いが、市民が白井市内の身近な自然環境について、もっと知り、興味・関心が持てるよう、さらに認知度を高める必要がある。	市民が市内の自然環境を理解し、市民と市が協働で自然環境を守り、育んでいく必要がある。

	短期的な方向性	中長期的な方向性
施策の方向性（改善策）	市内の豊富な自然を有する森に対する市民の認知度を高めるため、神々廻市民の森で市民団体等とグラウンドワーク活動を実施する。 市民が市内の身近な自然環境に興味・関心を持てるよう、みどりが形成されてきた歴史や貴重さなどに関する学習機会を充実するとともに、市民団体が実施する環境学習を支援し、共催で実施する。またその活動をSNSを利用してPRする。 中学校の環境学習授業実現の為、職業体験の受け入れを行う。	市民が市内の自然環境をより理解できるよう、神々廻市民の森でのグラウンドワーク活動を他にも広げていく。 環境学習を通じて、市民が自然環境への興味・関心を高め、市民と行政が協働で自然環境を守り、育んでいく。

施策を取り巻く環境の変化

市街化調整区域の開発について、平成26年度から規制することとなったが、太陽光発電施設の設置に伴う林地開発などにより森林面積が減少している中、市民の自然環境への興味・関心を高め、みどりの地域資源を守り、育む活動を地域や市民団体等と行政との協働で取り組むことが求められている。

市民と行政の役割分担・協働

□ 行政の役割を拡大　□ 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持　■ 市民の役割・協働を拡大

森のグラウンドワークについては市民と行政との協働で進めている。環境学習についても、既に市民団体が行っている環境学習への支援や市との共催での実施など、今後さらに連携して協働で進めていく。

7 2次評価(Check②&Action②)　白井市行政評価委員会による評価

・土地所有者を含めた市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、引き続き啓発等に努めること。
・「しろい市民まちづくりサポートセンター」に登録する市民活動団体等と連携して、環境保全活動を実践する市民・市民団体の裾野を広げていくこと。
・未就学児や小中学生など小さい頃から白井の環境を知り、興味を持ってもらう取組を進め、未来の環境保全活動を担う人材の育成につなげること。

8 3次評価(Check③&Action③)　総合計画審議会による評価

平成３０年度に実施済み。平成３１年度は未実施。

9 3次評価の改善意見等への対応